

カップリング・インターンシップ(CIS)活動報告(ベトナム)

グローバルダイバーシティ&インクルージョン推進室

准教授 勝又 美穂子

9月24日～10月3日（移動含む）の約10日間、ベトナムにおいてカップリング・インターンシップ（CIS）を実施しました。今回はベトナムの首都ハノイ市から車で約1.5時間東の港湾都市ハイフォン市の工業団地に位置するIHI インフラストラクチャーアジア（IIA）に企業実習を受け入れて頂きました。今回の参加学生は、大阪大学の外国語学部2名、工学研究科2名、ハノイ工科大学工学部2名、経済学部2名、の計8名でした。

9月25日にハノイ工科大学にて実施された事前研修にて阪大学生と現地学生が合流し、日本とベトナムの紹介、日本企業の紹介、コミュニケーションの基礎、CIS 課題へのチーム協議などを行いました。最初は少し距離のあった学生達でしたが、1日の事前研修を経て、すぐに打ち解ける様子が見られました。事前研修後にハイフォンへ移動し、翌日からの企業実習に備えました。9月26日からの4日間はIIAにて、企業紹介、各部署の取り組みなどを学ぶと共に、部署や役職の異なる多くの皆様とのインタビューを通して幅広く学習しました。今回は「IIAにおける労働意欲の課題と対策（役職による優先順位を念頭に）」というテーマを頂戴し学生達が取り組みました。工場では溶接実習やガス切断の実習、そしてローカルベトナム企業（顧客）

の訪問を行う等、IIA の製造活動を多角的な側面から理解することができました。

10月2日（月）には、ハノイ工科大学にて、IIA より梶間社長、山中工場長、ハノイ工科大学から Hanh 溶接グループ長、Cuong 産業経済学科長、接合研からは近藤教授が、その他オンラインにて当研究所より複数名が参加の下、最終報告会を開催しました。学生達は2チームに分かれ、テーマに対する考察や提案を行いました。学生達からはIIAにおける労働意欲に関して問題点を見つけることは難しいという声が多く聞かれましたが、既に行われているどのような取り組みが労働意欲を向上させているか等、好例を示しながらも一層の改善が期待される点について多数の提案がありました。

10日間という短い時間でしたが、学生にとり工場の空気や音を感じながら学べた時間は大変貴重な経験でした。また、発表直前まで繰り広げられた白熱した議論により方向性の確定に苦労したチームもありましたが、そうした経験により深まった仲間との絆はかけがえのないものとなるでしょう。

改めて、受け入れて頂いたIIAの皆様、そして連携頂いたハノイ工科大学の皆様はこの場をお借りして御礼申し上げます。

